

## 12. 久御山町大池神社文書調査

鈴木 詩織

### 1. 概要

久御山町大池神社文書は、大池神社・東一口自治会（京都府久世郡久御山町）が所有している大池（巨椋池）に関する文書群である。文化情報学研究室では、昨年度の文化情報学実習Ⅰ・歴史情報学演習Ⅰにおいて大池神社文書の調査を行なった（『フィールド調査集報』第8号「11. 久御山町大池神社文書調査」参照）。この文書調査を通して、大池近辺の村どうしで起きていた争論や、大池漁業組合、大池水産組合の動きが確認できた。調査成果としては、2022年3月、東昇「大池神社の守ってきた文書」（京都学研究会編『京都を学ぶ【伏見編】』ナカニシヤ出版）、11月21日、東昇「東一口と巨椋池の歴史～大池神社の古文書から～」（文化財講演会文化庁京都移転記念事業：久御山町役場5階コンベンションホール）がある。

その後、今年度末まで借用を延長し、以下の日程で引き続き調査・報告を行なった。また、今年度中に久御山町大池神社文書の解題作成を行う予定である。

調査日程 2022年4月11日、5月27日、12月15日

調査参加者 東昇（教員）、長谷川巴南（博士前期課程1回生）、鈴木詩織（4回生）

### 2. 内容

久御山町大池神社文書は、全148点の文書群であり、現在、3箱構成にてこれを管理している。箱1に収納されている文書は、1711～18年に起こった東一口村・伏見弾正町・小倉村漁師ら三ヶ郷仲間と伊勢田・新田・安田村との漁場争論や、1789年に洪水により安田村が疲弊し漁業赦免となったことなどに関する文書、1746年の「漁師由緒書」、1894年頃までの大池漁業組合関係資料などである。

箱2に収納されている文書は、1894年以降の漁業・水産関係が主である。1886年に成立した大池漁業組合は1902年に大池水産組合、1922年に大池水産会と改称しながら活動を続けるが、1933年に巨椋池の干拓が起工され1941年に完了すると、魚類の棲息水面がないこと、会員らが農業を生業に移行していることから、昭和16年度で解散した。

箱3（杉箱）には、「高智文蔵顕彰碑拓版」や1975年の「大池神社本殿遷座祭本殿祝詞」、三ヶ郷仲間文書など、様々な文書が2つの文書箱に分けて収納されている。箱3やその内部に収納されている箱の側面には、「巨椋池土地改良区理事長印」や「東一口区長之印」の紙封印跡が見られた。

現在に至るまで文書は大池神社社殿内で保管され、池に生息していた生物の鎮魂と、人々の繁栄のために創建された大池神社と共に、東一口の人々によって大切に守り続けられている。

#### 編集後記

フィールド集報は、刊行当初より Adobe 社の InDesign を利用して組版作業を手作りでおこなっている。InDesign の取り扱いは、歴史学科文化遺産学コースのうち、考古・建築・地理の実習メニューに含まれ、本書の一部については、そうした実習のなかで学生が組んだものとなっている。

今年度のフィールド調査においても、各地で多くの方からのご理解とご協力を賜った。ここに改めてお礼申し上げる。歴史や文化遺産にかかる調査は一人では決して成しえないということを、今後も常に意識するように努めたい。(う)

---

京都府立大学文学部歴史学科

## フィールド調査集報 第9号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2023年3月30日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2

---